

【授業科目】健康科学概論 Introduction to Health Sciences

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
柴田 英治	2年次前期	必修	1	15	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び 課題に対する フィードバック方法	臨床検査技師は人間の健康とは何か、健康に及ぼす影響にどのようなものがあるか、より健康になるにはどうすればいいのかなどについて理解し、患者及び生活する人々の健康リスクを回避するとともに健康増進に向けてのサポートも求められるであろう。本授業では広い視野から人間の健康をめぐる状況を理解し、医療人としての健康観、世界観を自ら作り上げるための基礎的な考え方を学ばせる。 課題に対するフィードバック方法/毎回の授業で取り上げた内容について小テストを行う。小テストは主なキーワードの習得とその理解を試すもので、次の授業でその内容についてフィードバックを行う。							
実務経験に関する 授業内容	医師としての臨床経験、及び産業医としての実務経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な健康を巡る歴史的出来事、健康の概念的な捉え方、健康を守る社会的な仕組み、日常生活の中に存在する身近な健康課題、臨床検査と作業環境測定・労働生理学的検査との比較などについて視覚的教材、自身の経験、社会的によく知られた事例を交えて指導する。							
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から医療技術援助ができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①健康の社会的決定要因の背景にある考え方とそれらの要因及び底流に存在する感染症の脅威について説明できる。 ②個人の食事、運動、喫煙、アルコール摂取などの生活習慣が健康に及ぼす影響について説明できる。 ③現代社会における生活空間のいたるところに見られる科学技術、住居などが人々の健康に及ぼす影響について説明できる。							
時間外学習に必要な 内容・時間	毎回の授業で次回の授業での講義該当部分の教科書の章、頁を示す。学生は次の授業までに示された教科書の該当部分を読んでおくこと。授業後は(授業1回あたり予習1.5時間、復習1.5時間) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	<p>第1回 現代の健康観と健康問題概観 現代における健康の定義と人々の健康状況を把握し、いかなる課題がありこれを克服するためにどのような取り組みが行われているかを考える。</p> <p>第2回 人の心身と健康を知る 人体の構造と機能を理解し、心の状態、遺伝情報と健康との関連についても考える。</p> <p>第3回 感染症の脅威 新型コロナウイルス感染症の蔓延を機に改めて人類の脅威としての感染症を取り上げ、対策としての公衆衛生のあり方を考える。</p> <p>第4回 環境と健康 主に化学的環境、物理的環境が健康に及ぼす影響を知り、健康リスク回避のため何をすべきかを考える。</p> <p>第5回 休養と健康 生活習慣が及ぼす健康影響を理解し、栄養、運動、睡眠・休養による健康増進効果などについて考える。</p> <p>第6回 世代と健康 乳幼児、小児、児童・生徒・学生、勤労世代、高齢者の各世代の健康課題について考える。</p> <p>第7回 科学技術革新と健康 スマホ、パソコンはじめ、身近なICT技術革新が及ぼした健康影響を理解し、その対策を考える。</p> <p>第8回 居住環境と健康 我々は多くの時間を過ごす室内環境と健康との関連を考え、室内におけるより健康的な過ごし方を考える。</p>							全て柴田
評価方法 評価基準	授業の最後に課す小テスト20% 定期試験80%							
教科書	テキスト健康科学改訂第3版 (南江堂)			参考書等	必要時紹介する			
学生への 助言等	この授業は考え方を身につけるために行います。重要な事項を記憶することは必要ですが、それらを材料にしてどのように考えるかについてトレーニングすることを目指します。身近な生活のいろんな場面で健康に影響を及ぼす因子は無数にあり、これらとどう関わっていくかについて授業の内容を発展させて考えてみてください。							